

誌上行学講習会

高佐日焯上人

第五課、百界の心理観。

一、支那の天台大師は此の間の消息を道破する為、一念三千の哲学を編み出した。

支那の随という時代、日本の聖徳大師の出られた頃でありすが、支那一番の大仏教学者であった天台大師がつくられたものに一念三千の哲学と云うのがあります。一念三千とは、簡単に言つて数字の千と云つてよいとおもいます。そこでこの三千といふこととありますが、

「一念三千とは、十界は互具して百界となり、今申しました地獄から始まつて仏界にいたる十界（十の社会）にそれぞれ他の九界をそなえておる例へば、地獄の中に地獄、地獄の中の餓鬼、地獄の中の畜生、地獄の中の修羅、地獄の中の人間、地獄の中の天上、地獄の中の声聞、地獄の中の縁覚、地獄の中の菩薩、地獄の中の仏といふふうによつて十界のごとく互具（おたがいにそなえて）している。このように天台大師は考えられたのであります。十界に十界をかけるのですから百界（ $10 \times 10 = 100$ ）となりす。

「百界はそれぞれに十如是があるから千如是となり、即ち正しく百界を観察する為には十如是といふ認識の方法に立たねばならないから、百に十をかけて千（ $100 \times 10 = 1000$ ）、つまり千如是の認識となるわけでありす。

「其の千如是は衆生世間（社会的境遇）、国土世間（社会的環境）、五蘊世間（田稻的内容）の三方面に亘るから、合して三千の数となる。」

衆生世間というのは世の中の境遇のことであり、国土世間は、その人達の住んでいる自然の環境のこと、五蘊世間は人間の思想（心理）のこととであり、千如是を三倍して三千（ $1000 \times 3 = 3000$ ）となるのであります。

「その三千は畢竟一念の中に納つて見ると是を一念三千の法門と言ふのである。」

ここで注意したい点は、地獄の中にも仏があり、餓鬼の中にも仏があるといふことで、如是なる境遇、如何なる状態におかれても、我々の理想の人格は消えていない、人間はどんなに悪事を働くときでもこれと正対な仏さまの心を奥深く持つていてとみる立場であります。如何に傾いた環境の中からも人は必ず堕落から起き上つて、仏さまになる可能性があると云うのが一念三千の法門なのであります。

「今ここで取り上げるのは、其の中の五蘊世間の問題である。」

次号に続く